

人材養成計画構想・概要

対象業務及び対象分野 「(1) 大学院修士課程相当 人社融合分野」
人材養成ユニット名 「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」
代表者名 「白鳥 正樹」
提案機関名 「横浜国立大学」

計画の目標・概要

1. 目標

人材養成開始後3年目の目標

リスクマネジメント分野における修士課程レベルの人材を50人養成し、官庁、自治体、企業へ供給する。

人材養成開始後5年後の目標

リスクマネジメント分野における修士課程レベルの人材を130人、博士課程レベルの人材を5人養成し、官庁、自治体、企業へ供給する。

2. 内容

本ユニットは、安心・安全の科学研究教育センターを教育システムの拠点とし、修士課程コースを主体に、それと博士課程コースで構成される。

修士課程コースは、リスクマネジメントを実践するための基礎コースに位置づけられ、リスクの分析とコミュニケーション、リスクコミュニケーションワークショップ A、Bのユニット特設科目をはじめ、リスクマネジメントのための技術者倫理、労働安全衛生リスクマネジメントといった新設科目を含めた27科目をユニット関連科目と位置づけ、工学分野および社会・人文科学分野を融合させたカリキュラム編成とした一連の講義を通して、リスクの低減と回避の方法論を身につけ、具体的な実務上の課題に、リスクマネジメントの手法を的確にかつ総合的に適用できる判断知識をもつ人材を輩出する。

博士課程コースは、企業現場等における保安技能の伝承や保安教育の問題を含め、生活環境において安全・安心を脅かす個々のリスクの同定と、それに対する対策を立案する能力、あるいは先端的研究を実施するための安全維持管理の方法論を身につけた人材を育成する。特にリスクコミュニケーションワークショップなどの演習を通じ、具体的な問題解決のトレーニングをつむことで、実践的かつ指導的な博士レベルの技術者を輩出する。

本ユニットでは“field study based education”というべき教育を大学院レベルで実施することにより、安全管理マネジメントシステムの企画立案・計画策定・事後評価、安全管理のための研究・教育の企画と実施など、問題を自ら解決する能力を身につけさせ、環境リスク対策を含めた安全管理業務の中核となるべき国際的視野を有するセーフティーエンジニア、リスクマネージャーおよびリスクコミュニケーター等の人材を輩出する。

人材養成の必要性

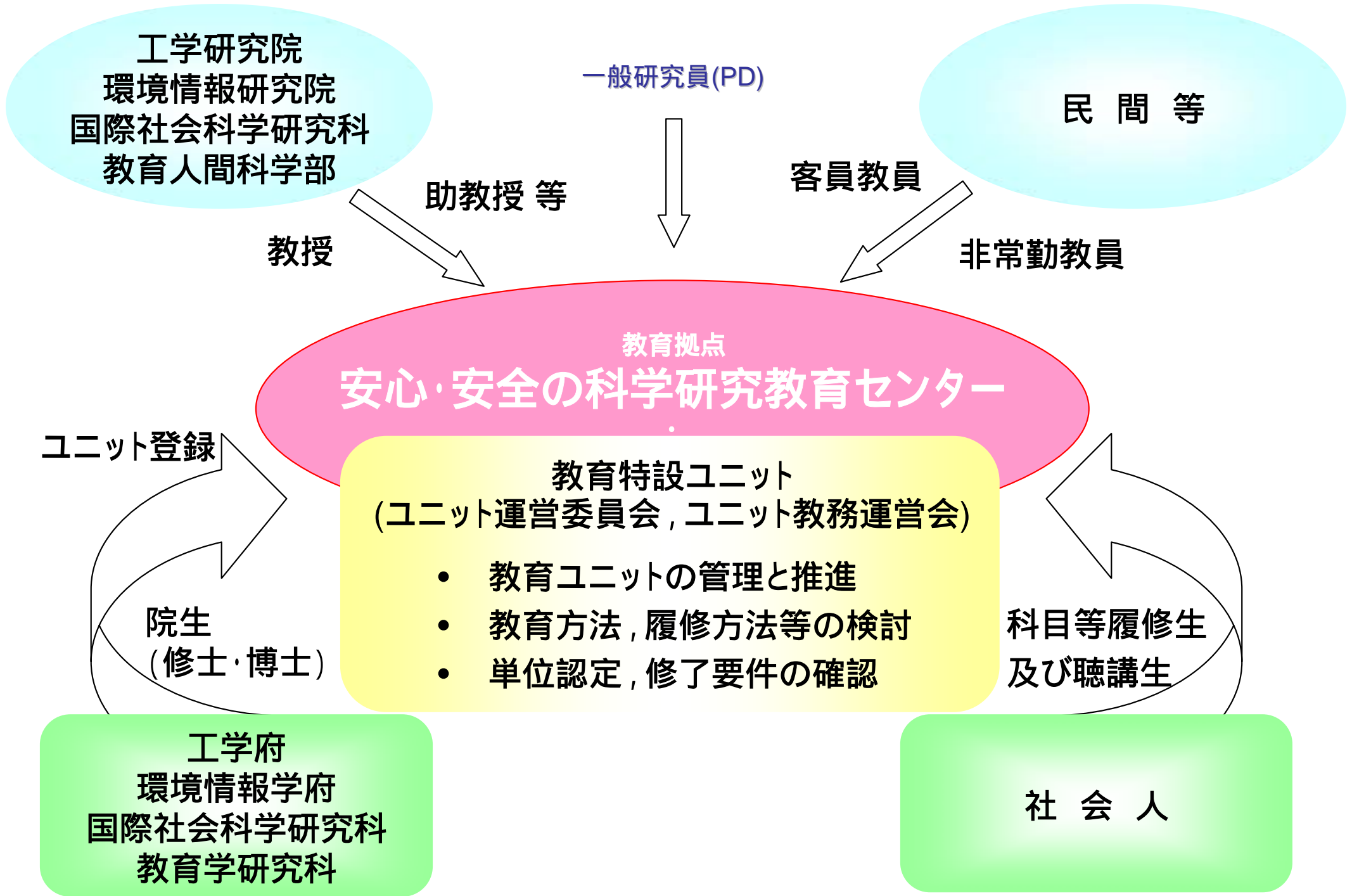
社会構造および産業構造の変化に起因した災害・事故が多発しているにも係わらず、災害防止・リスク低減という今日的な問題をトータルに取り扱える人材がわが国においては著しく不足している。つまりわが国では、縦割りの学問分野で教育を受けた優れた人材が多数輩出されているが、工学技術と社会科学が融合した本来あるべき安全管理の考え方と方法論を身につけた技術者が特に少ない。さらに安心・安全な社会を構築するため特に必要なリスクコミュニケーションを担うべき人材も強く社会から要望されているが、育成されていない。

したがってこのような人材を養成することは、ものづくり産業に支えられるわが国にとって急務である。

計画進展・成果がもたらす利点

産業活動に潜むハザードを的確に把握し、かつその対策を立案・実施することが可能なセーフティーエンジニア・リスクマネージャーの育成、企業と地域住民とのリスクコミュニケーションを図りうるリスクコミュニケーターの育成など、高度な専門的判断能力を有する人材の輩出により、安心・安全基盤に支えられたわが国のものづくり産業の振興に貢献する。

高度リスクマネジメント技術者育成ユニット実施体制



高度リスクマネジメント技術者育成ユニット実施内容

教育目標

- リスクマネジメントの手法を的確に、かつ総合的に適用できる高度な意思決定能力を持つ人材の育成（修士：130人/5年）
- 産業構造や社会の変化に対応でき、かつセーフティーマネジメント部門の中核となる国際的視野を有するリスクマネジメント技術者の育成（博士：5人/5年）

カリキュラム

人文・社会科学と工学技術を融合した
新しい安全科学の考え方と方法論に基づく教育カリキュラム

ユニット特設科目

- ・リスクの分析とコミュニケーション（修士）
- ・リスクコミュニケーションワークショップ A, B（修士）
- ・リスクコミュニケーションワークショップ（博士）

ユニット関連講義：27講義（新設：5講義，既設・振替講義：22講義）
協力コース等講義：10講義（COE関連科目）

新規専門職業人の 育成

セーフティエンジニア，リスクマネージャー，リスクコミュニケータ等
安心・安全な社会の構築を先導する新しい職業人の育成